

平和のためにできること

物部小学校六年 須田 琴名

私は、私達のように朝起きて、学校に行ったりご飯を食べたりする今の生活を世界中の人々ができたら、それが平和だと思います。

以前、台風で廊下に避難した際に、ほんの数十分の出来事だったにも関わらず、不安感に襲われ、心配になりました。戦争の生活は、そのような状態がずっと続いていたと考えるとより一層怖いと感じました。戦争中は明日生きているかもわからない状態で、あまりご飯も食べれずにいたそうです。そして、日頃の揉め事などをなくしていくことが戦争のない世界へ一歩近づくと思います。

私は戦争をして良いことは何だろうと疑問に思いました。でも、戦争中の状況について知れば知るほど戦争の良さは無く、幸せの感情は生まれないと思いました。そして、良さがないのであれば行う必要はないのではと思います。また、戦争の残酷さ、悲惨さを学び、次の世代へとつなげていくことが私達に託された未来だと思っています。

そもそもなぜ戦争が起こるのかについて気になりました。戦争は、自然災害のように防ぐことが難しく、前触れがないわけではなと思います。戦争は、人間同士のトラブルから始まるので、事前に防ぐことができるはずです。防ぐことができるのにも関わらず今でも戦争が起こってしまったのは、国同士が対立し、自分の国に有利な貿易などをしようとするから起こるのです。私は話し合い

などでお互いに利点のある結果にすればよいと思います。それでも他の国に負けじと自分の国を豊かにしようという強い感情から戦争は起こるのだと思います。自分の国を豊かにしようと思い、努力することは大切です。でも、戦争で勝って豊かにするのではなく、国民の安全を最優先にすることが本当の豊かさなのではないかと思います。そして、世界中の国々がお互いに譲り合ったりときには我慢したりして国民の安全や幸せを最優先にすることができれば平和が訪れると思います。

修学旅行に行った際に平和記念資料館を見学しました。思わず目を伏せてしまうような残酷な資料をたくさん見ました。ですが、なぜ六年生で修学旅行で広島に行き、平和記念資料館に行くかという、それは、低学年で平和記念資料館に行くと泣いてしまったり、怖いという感情が心に残るだけで終わってしまいますが、六年生で事前学習をしていくことで戦争や原爆といった残酷なものでも背を向けずにじっくり考えることができるだろうという思いがあり、そして次の世代に繋いでほしいという願いがあるからだと思っています。被爆した人々、戦死した人々、そして戦争で家族や友達をなくした人々の思いを私達が受け継ぎ、二度と戦争を起こさないように訴えていくことの大切さを平和記念資料館で学びました。

私は平和学習や平和記念資料館で学んだ戦争の悲惨さを伝えていくためにまずは、日頃の揉め合いなどをなくして行くことが大切だと実感しました。